

被災地—福島から

福島県立医科大学医学部神経精神医学講座

丹羽 真一



福島支援に入られた
坪井先生、橋詰先生ら

A map of East Asia, including parts of the Korean Peninsula, the Japanese archipelago, and the Philippines. A large purple oval highlights the Japanese archipelago. The text "被災の状況" is written in yellow across the oval.

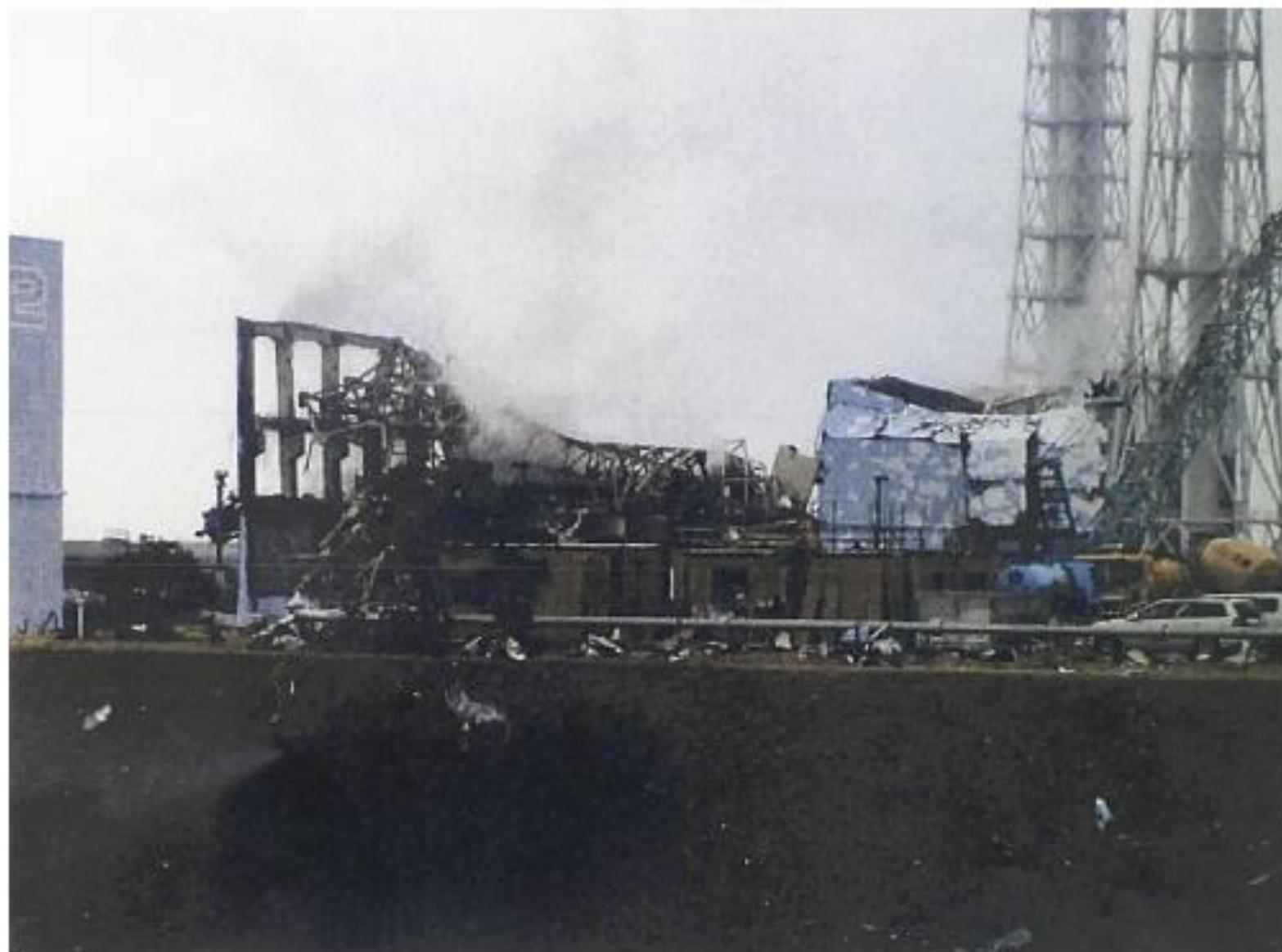
被災の状況



福島市伏拝の崖崩れ現場
(福島医大から2kmくらいの所)



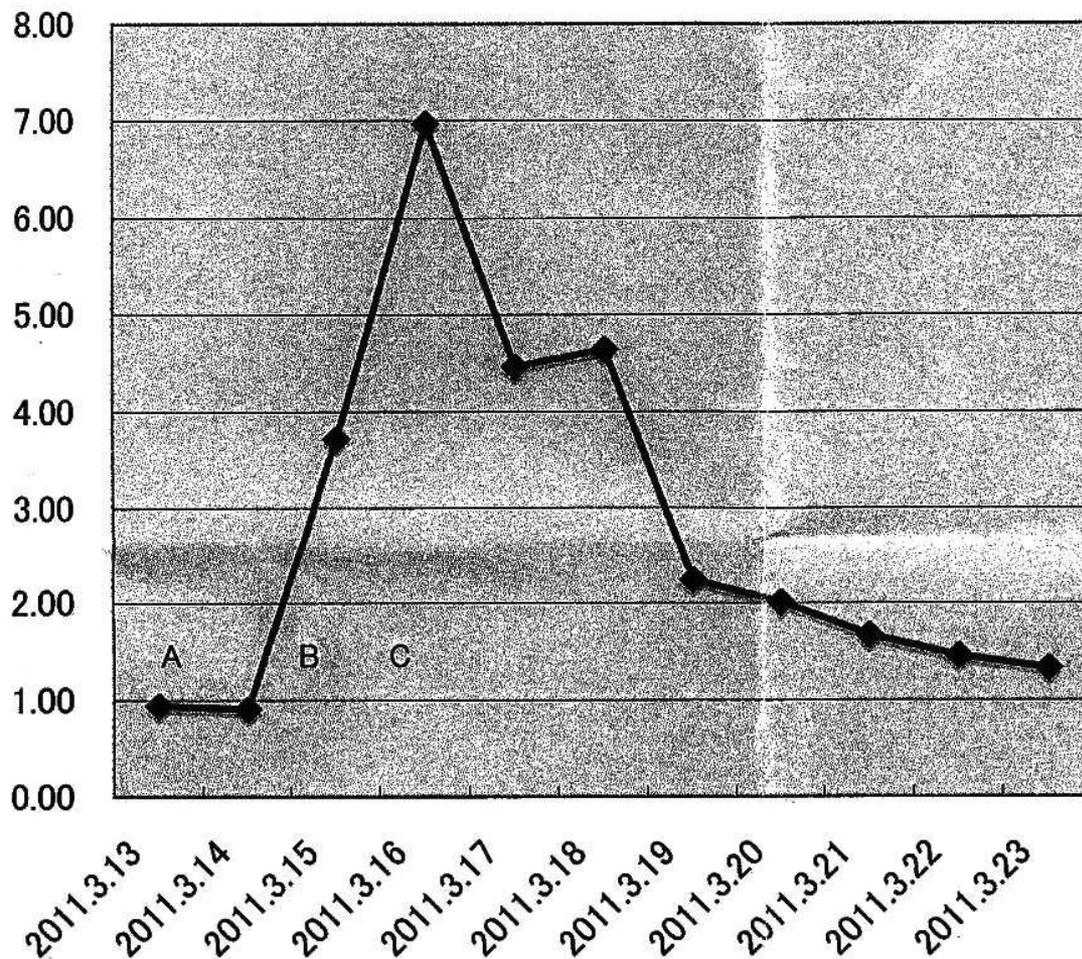
相馬市の海岸部 大正大学 野田文隆 先生より提供



煙を上げる福島第一原発の3号機周辺(21日午後5時15分) = 東京電力提供

大学敷地内バックグラウンド放射線量の推移

観測値 ($\mu\text{Sv/h}$) 日ごと平均



—◆— 観測値 ($\mu\text{Sv/h}$) 日ごと平均

- A: 3号機建屋の水素爆発
- B: 2号機、4号機で爆発
- C: 2号機、3号機で漏出



7% イソジンガーゲル

- | | |
|----------------|--------|
| ・ 新生児 | 1.8ml. |
| ・ 生後1カ月 ~ 3才未満 | 3.6ml. |
| ・ 3才以上13才未満 | 5.5ml. |
| ・ 13才以上40才未満 | 11ml. |
| ・ 40才以上 | 不要 |



福島県内の避難所と避難者

避難所

避難者

3月16日

403

73608

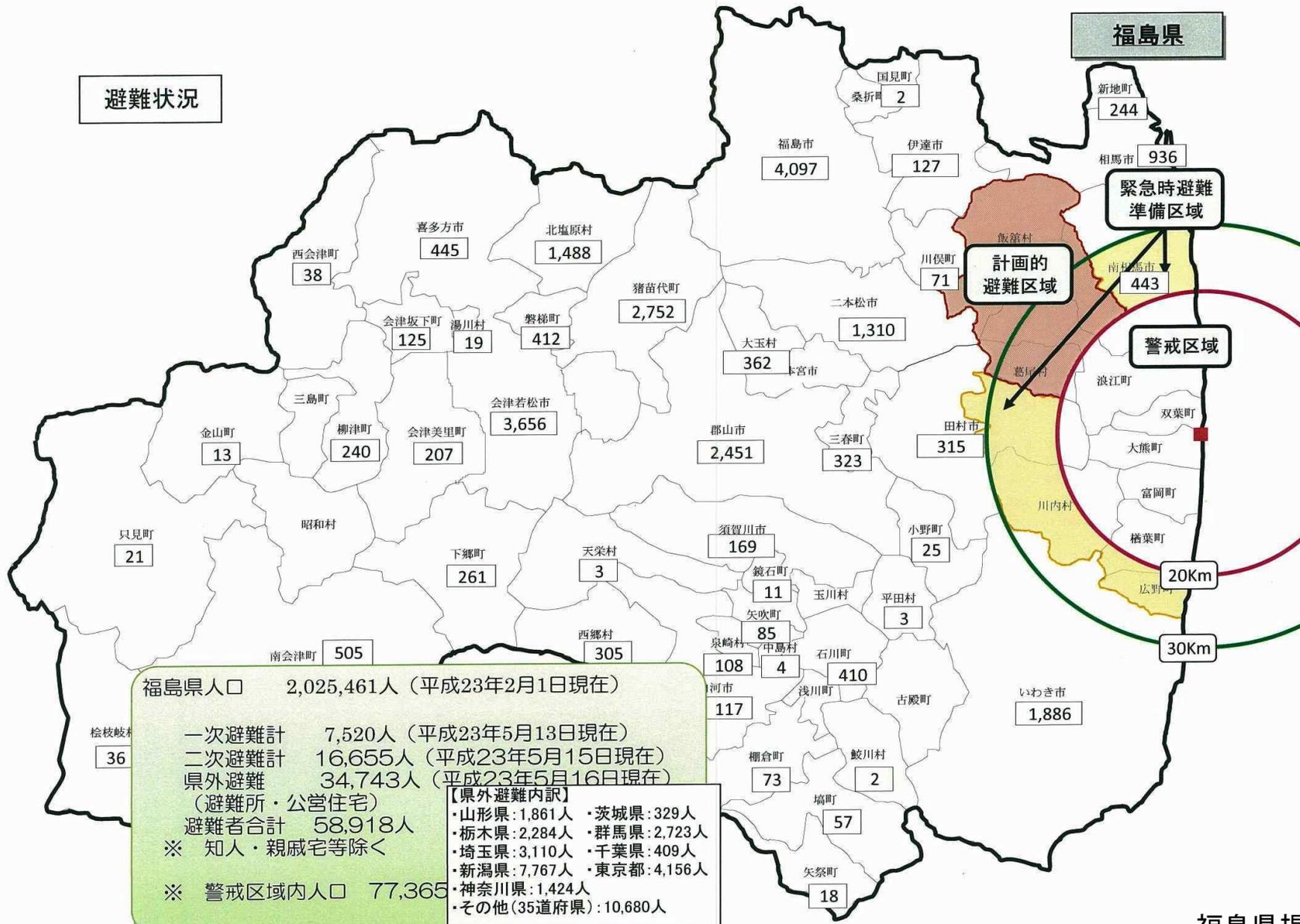
5月16日

121

7329

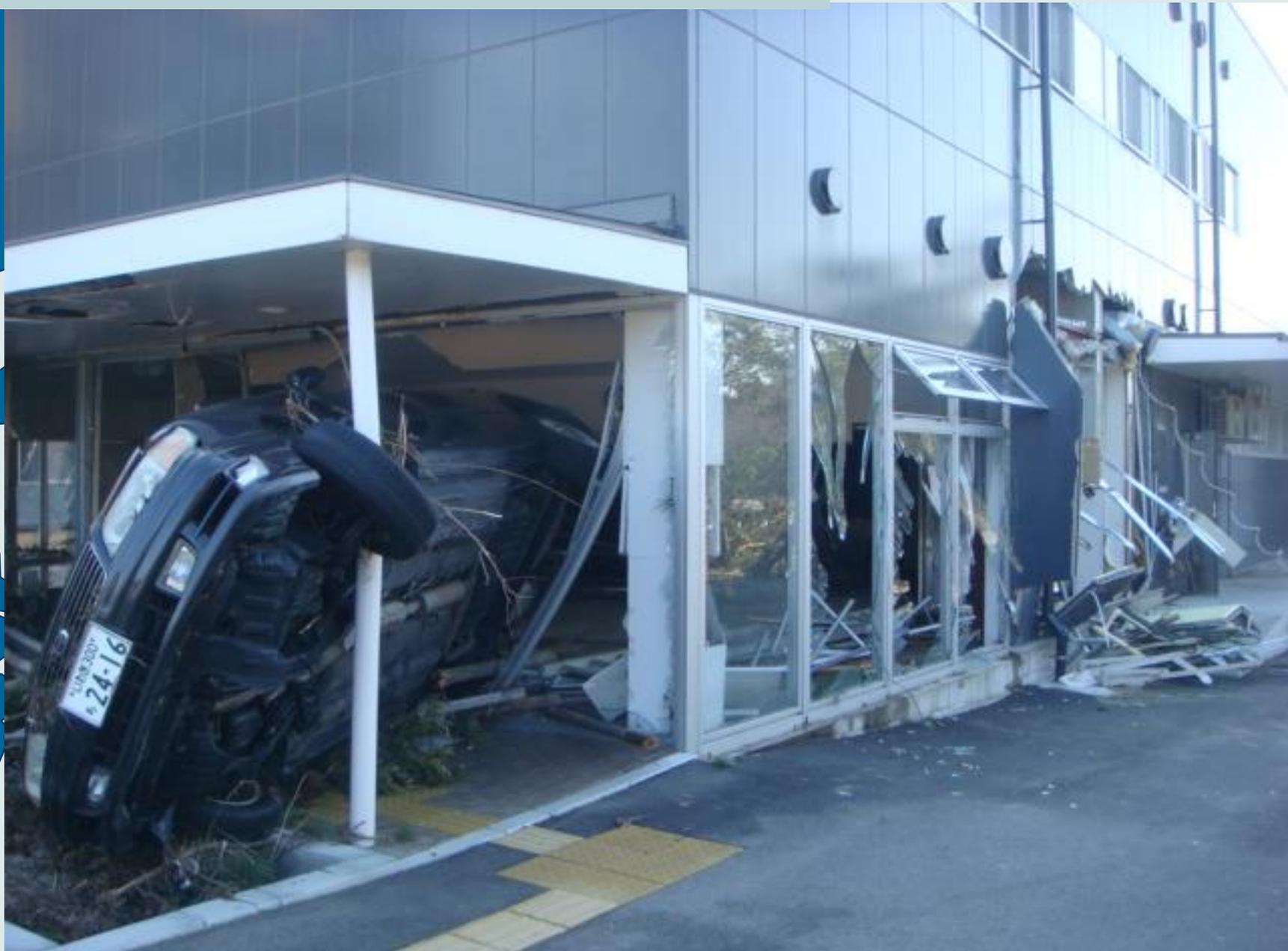


避難状況





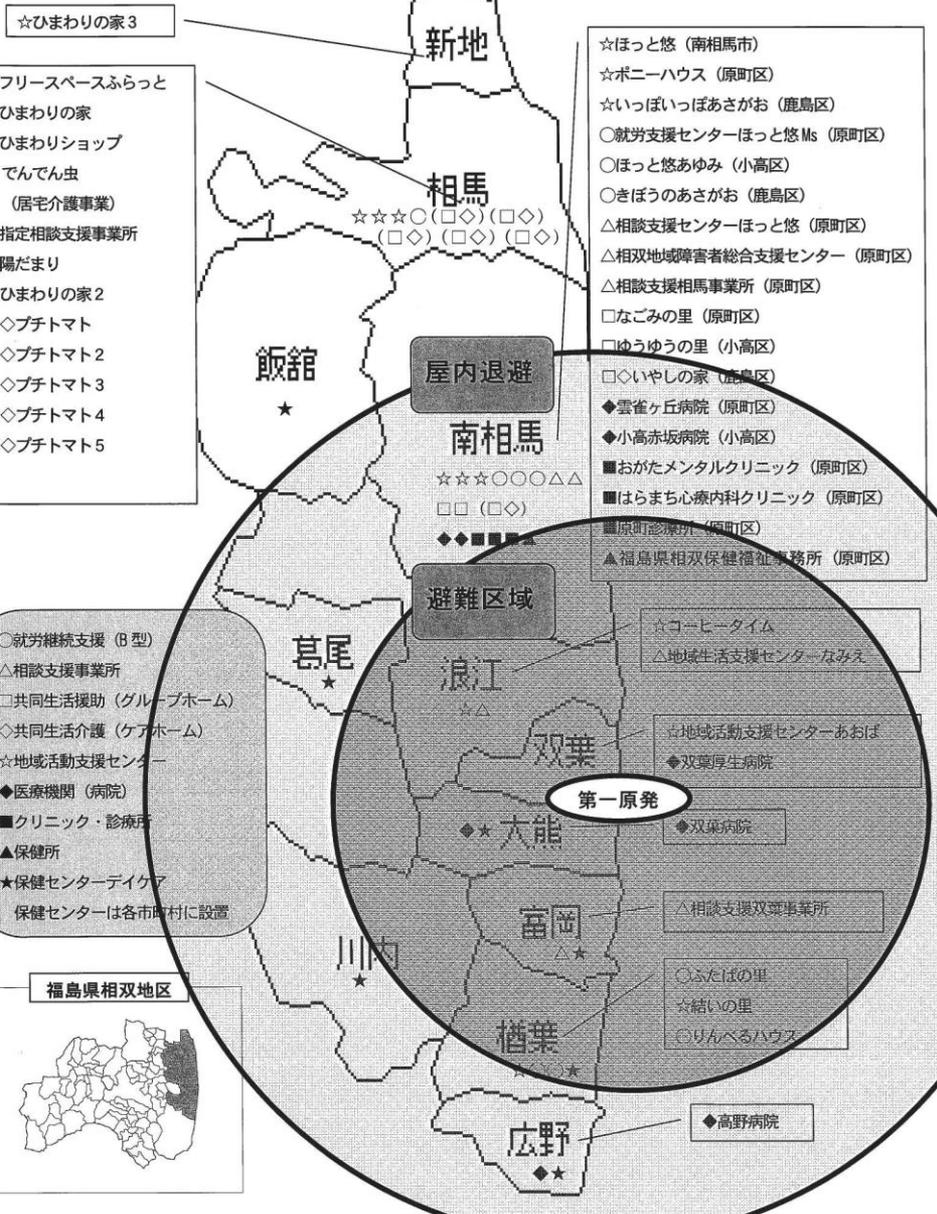
心の医療システムにおきた 障害の状況



相双地区社会資源マップ（精神）

平成 21 年 6 月現在のマップをもとに作成

4 月 10 日現在 地域生活支援研究会 5 周年記念号より引用 作成者 米倉一磨



☆ひまわりの家 3

- ☆フリースペースふらっと
- ひまわりの家
 - ひまわりショップ
 - でんでん虫 (居宅介護事業)
 - ☆指定相談支援事業所
 - 陽だまり
 - ☆ひまわりの家 2
 - ◇プチマト
 - ◇プチマト 2
 - ◇プチマト 3
 - ◇プチマト 4
 - ◇プチマト 5

- ☆ほっと悠 (南相馬市)
- ☆ポニーハウス (原町区)
- ☆いっばいっばあさがお (鹿島区)
- 就労支援センターほっと悠 Ms (原町区)
- ほっと悠あゆみ (小高区)
- きぼうのあさがお (鹿島区)
- △相談支援センターほっと悠 (原町区)
- △相双地域障害者総合支援センター (原町区)
- △相談支援相馬事業所 (原町区)
- なごみの里 (原町区)
- ゆうゆうの里 (小高区)
- ◇いやしの家 (鹿島区)
- ◆雲雀ヶ丘病院 (原町区)
- ◆小高赤坂病院 (小高区)
- おがたメンタルクリニック (原町区)
- はらまち心療内科クリニック (原町区)
- 原町診療所 (原町区)
- ▲福島県相双保健福祉事務所 (原町区)

- 就労継続支援 (B 型)
- △相談支援事業所
- 共同生活援助 (グループホーム)
- ◇共同生活介護 (ケアホーム)
- ☆地域活動支援センター
- ◆医療機関 (病院)
- クリニック・診療所
- ▲保健所
- ★保健センターデイケア
- 保健センターは各市町村に設置



☆コーヒータイム
△地域生活支援センターなみえ

△地域活動支援センターあおぼ
◆双葉厚生病院

◆双葉病院

△相談支援双葉事業所

○ふたばの里
☆結いの里
○りんべるハウス

◆高野病院



現在、抱えている心の医療
の課題



こころのケアチーム いわき地区へ

県災害対策本部

県精神保健福祉センター

県北

4月～他県からの心のケアチームに依頼

避難所

福島市

県立医大災害対策

心のケアチーム

【医学部】
・神経精神医学講座

【看護学部】
・精神看護学領域
・心理学教員

県北地域でのチーム編成

センター：精神科医師・保健師・CP
県：CP
医大：看護学部教員（精神・心理）

医療活動 & 保健活動

避難所

新地町

避難所

相馬市

在宅者訪問

公立相馬総合病院臨時精神科外来

相双

相双地域でのチーム編成

* 県外からの精神科医師
看護師・心理士・PSW
等
医大：精神科医師
医大：看護学部教員（精神）
相双保健福祉事務所保健師

医療活動 & 保健活動

避難所

南相馬市

在宅者訪問

いわき市でのチーム編成

医大：精神科医師
医大：性差医療医師
+ 医大：看護師・CP

避難所

いわき市

診療活動： 4/11～「こころの相談室」

福島医大・こころのケアチームの活動

- 1 厚労省 — 福島県（障がい福祉課） — 県精神保健福祉センター — 福島医大 のラインで
浜通り（太平洋沿岸部）を担当。
- 2 3月18日からいわき市と相馬市にて活動。
- 3 全国からの機関・個人による支援を受け、全ての方に福島医大・こころの
ケアチームとして活動頂いた。
さわ病院、国立精神神経医療研究センター、松沢病院、成増厚生病院、
独協医大、九大、昭和大、横浜市大、医科歯科大、東京医大、長崎大
のぞえ病院、日本心身医学会、栃木県、茨城県、群馬県、石川県、
福井県、滋賀県、長崎県、東京都
多数の個人
- 4 避難所回り、自宅訪問、公立相馬総合病院の臨時精神科外来での診療、乳
幼児健診など
- 5 消防隊員、警察官などの健診

放射能被ばくに関連する精神的問題 について

- ・ 原発から離れた地域の方が不安を口にする人が多い傾向
- ・ 福島では放射能恐怖で受診する人は少ない印象
- ・ 幼児、小児を持つ親の子どもへの健康への不安
- ・ 放射能被ばくからくる生活の不安が精神的問題につながる可能性

A stylized map of East Asia, including parts of the Korean Peninsula, the Japanese archipelago, and the Philippines. A large, light blue oval highlights the Japanese archipelago. The text '解決の方向性' is written in large, bold, yellow characters across the center of the oval.

解決の方向性

- 1, 相双地区に心の医療サービスを提供できる新しいシステム（例えば外来、アウトリーチを主とするシステム）の構築
- 2, 被災避難者をフォローしケアできる保健師を核とした精神的ケアのネットワークづくり
- 3, こどもの心の長期的ケアのプラン作りと、それを担うチームづくり
- 4, 放射能のメンタルヘルスに及ぼす影響を長期に調査し対策を講じるセンターづくり